

例えば、参考点として重要と考えられるのが、自治体（コミュニティ）の役割である。NFIP ではコミュニティがその地域のリスクを減らす努力を行うことで、保険料が安くなる。NFIP における年間保険料はおよそ 700 ドル近くと、日本と比較しても圧倒的に高い。しかし、その地域がリスク軽減の努力をすれば CRS という制度によって、ポイントを獲得出来、保険料が割り引かれる。それは洪水の知識に関する勉強会を地域で行うとか、図書館に洪水に関する資料を置いておくとか、物を買った際のレシートの裏側に洪水の知識を記載しておくなど様々である。こういったきめの細かい地域の防災活動が評価されている。これに対し、日本の地震保険にはこういった仕組みはなく、今後の検討が期待される。また、NFIP では保険料率もかなり細かいゾーニングがなされている点も注目すべき点ではあろう。

4. 地域防災力の向上に資する災害リスク情報の活用に関する研究

(1) 研究内容の概要

最後に私が現在行っている研究を簡単に紹介したい。この研究においては、地域の防災力が重要であるとして、従来までの垂直型の防災のように、自助の部分と公助の部分というような分け方ではなく、横に連携する防災というものを考えている。これは、ときには共助とも呼ばれているが、こういった防災力を育てるためには何が必要であるかということの研究している。つまり、図表 25 にあるような安全・安心な社会というものの考え方に応えられるような仕組みを作ろうと言うものでもある。

図表 25:安全・安心な社会



実際の社会には、図表 26 のように様々なリスクが存在しており、例えば災害の部分だけでも何種類もリスクがあるが、地域の防災力を考える場合には共通する部分があるはずである。

図表26:安全・安心を脅かす要因の分類

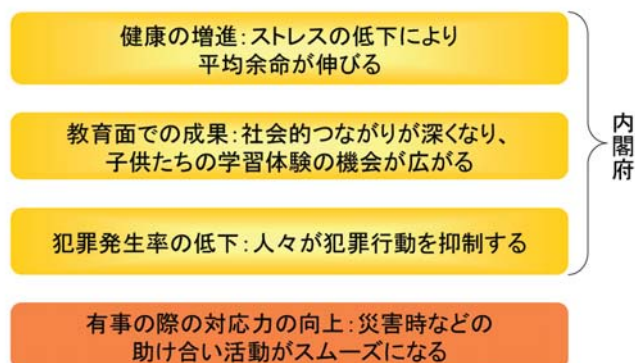
大分類	中分類
犯罪・テロ	犯罪・テロ、迷惑行為
事故	交通事故、公共交通機関の事故、火災、化学プラント等の工場事故、原子力発電所の事故、社会生活上の事故
災害	地震・津波災害、台風などの風水害、火山災害、雪害
戦争	戦争、国際紛争、内乱
サイバー空間の問題	コンピューター犯罪、大規模なコンピュータ障害
健康問題	新興・再興感染症、病気、子供の健康問題、医療事故
食品問題	O157などの食中毒、残留農薬・薬品等の問題、遺伝子組換え食品問題
社会生活上の問題	教育上の諸問題、人間関係のトラブル、育児上の諸問題 生活経済問題、社会保障問題、老後の生活悪化
経済問題	経済悪化、経済不安定
政治・行政の問題	政治不信、制度変更、財政破綻、少子高齢化
環境・エネルギー問題	地球環境問題、大気汚染・水質汚濁、室内環境汚染、化学物質汚染、資源・エネルギー問題

それを繋ぐ方法となり得ると考えられているのが「ソーシャル・キャピタル」(以下SC)である。これは、社会組織における社交ネットワークや規範、社会的信頼といったもので、「互いの利益に向けた調整や協力を促進するもの」(Robert D. Putnam)や、「社会構造に埋め込まれた規範や社会的関係であり、人々が望ましい目標を達成するために、行動を調整することを可能にしたもの」(World Bank)という定義がある。

これには実際に計測や評価が出来るのかなど様々な意見があるが、捉え方としては地域の連帯性とか紐帯というものが、いざというときにどのように役立つのかということ計測できないかと考えている。

内閣府が行っているSCの研究によれば、その効果は健康の増進や、教育面での成果、犯罪発生率の低下というものであったが、我々はそれにプラスして、有事の際の対応力の向上という効果もあるのではないかと考えている(イメージは図表27)。

図表27:SCの国民生活での効果

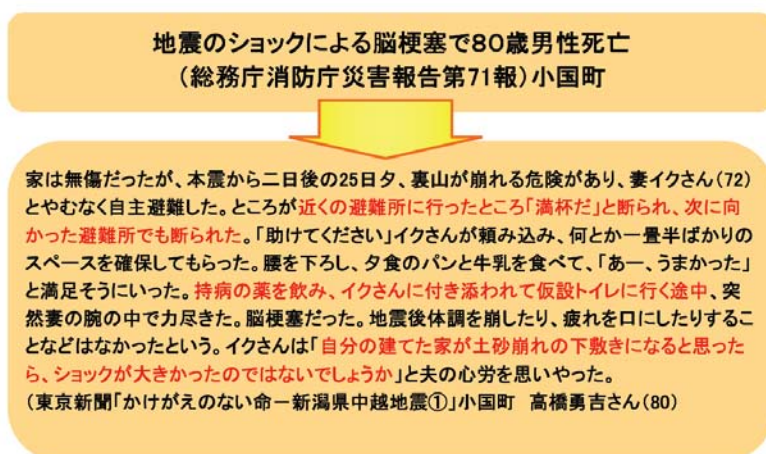


実際、過去の私の調査によれば、地域の付き合いの程度が高いほど自助の程度も高いという結果もでており、地域の連帯力が薄れてきているといわれている社会においては、こういう意識を醸成するような仕組みが必要となってくると考えられるのである。

(2) リスクシナリオの活用

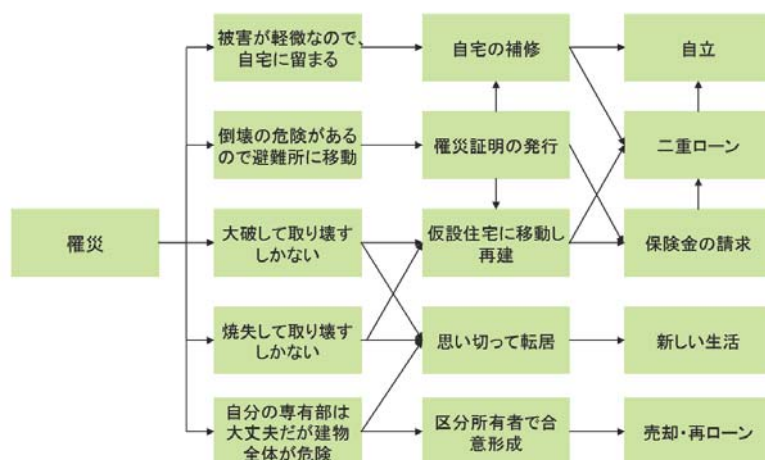
この研究において考えているものが、リスクシナリオである。このリスクシナリオを作成する手順の一つに、ストーリー・シナリオというものがあり、例示したものが図表 28 である。これは、中越地震で被害を受けた小国町の方の例を示したもので、上段の四角の中は消防庁による報告内容であったが、被害実態としてはもっと細かなプロセスがあったことがわかる。

図表 28: ストーリー・シナリオを書くために



そこで、地震が発生したらどのような事が起きるのかという被害の実態を描いたシナリオを作ろうということで、現在神奈川県藤沢市で実証的な取り組みをしている。具体的には、アンケートを行い地域の特性を調査し、一方で地震を想定し、それによって起こるストーリーを作るというプロセスを行っている。それを図表 29 のようなイメージの中にストーリーを納めて、それぞれの人が自分たちのリスクをきちんと実感できるツールを提供したいと考えている。

図表29:リスクシナリオの流れ



これは多分行政が行っている被害想定などとは違った意味で人々の役に立つのではないかと考えており、地域の防災力向上にも役立てば幸いである。